

平成 28 年 7 月 10 日 (日) 施行

## 第 183 回 全経簿記能力検定試験 2 級 商業簿記 解説

### 第 1 問

- 積送品 ¥126,000 を仕入勘定に振り替える。
- 前期末に以下のとおり見越し計上している。

(借) 未 収 利 息	64,000	(貸) 受 取 利 息	64,000
-------------	--------	-------------	--------

これを当期首に再振替。

- 前期に不渡りとなった手形（不渡手形 ¥180,000）を当期に貸倒処理する。
- 株主総会で決議された配当金は未払配当金として処理されている。これを小切手で支払う。
- 中間納付をしたときは、仮払法人税（資産）として処理する。
- 倉庫の建設依頼のときに小切手を振り出して支払った金額は建設仮勘定で処理する。
- 払込金額は、発行価額 ¥3,000,000 × (¥99 / ¥100) = ¥2,970,000  
社債の発行に要した諸費用は社債発行費勘定で処理する。

### 第 2 問

#### ① 売上総利益

$$\text{純売上高} = \text{当期総売上高} - \text{当期売上返品高} = ¥4,215,000 - ¥42,000 = ¥4,173,000$$

$$\text{純仕入高} = \text{当期総仕入高} - \text{当期仕入返品高} = ¥3,283,000 - ¥48,000 = ¥3,235,000$$

仕 入		損益計算書	
期首商品	1,775,000	売上原価	3,122,000
純仕入高	3,235,000	売上原価	3,122,000
	期末商品	原価以外の費用	純売上高
	1,888,000	928,000	4,173,000
		当期純利益	売上以外の収益
		278,000	155,000

$$\text{売上原価} = \text{期首商品} + \text{純仕入高} - \text{期末商品}$$

$$= ¥1,775,000 + ¥3,235,000 - ¥1,888,000 = ¥3,122,000$$

$$\text{売上総利益} = \text{純売上高} - \text{売上原価} = ¥4,173,000 - ¥3,122,000 = \underline{¥1,051,000}$$

#### ② 当期純利益

$$\text{収益} - \text{費用} = (¥4,173,000 + ¥155,000) - (¥3,122,000 + ¥928,000) = \underline{¥278,000}$$

#### ③ 期末純資産(資本)

期首貸借対照表				期末貸借対照表			
現金・預金	635,000	買掛金	980,000	現金・預金	683,000	買掛金	X
売掛金	1,160,000	期首純資産	2,590,000	売掛金	1,245,000	期末純資産	2,718,000
商品	1,775,000			商品	1,888,000		

$$\text{期首純資産} = \text{期首資産} - \text{期首負債}$$

$$= (¥635,000 + ¥1,160,000 + ¥1,775,000) - ¥980,000 = \underline{¥2,590,000}$$

ここで、期末純資産 = 期首純資産 + 資本追加元入高 - 資本引出高 + 当期純利益より

$$= ¥2,590,000 + ¥330,000 - ¥480,000 + ¥278,000 = \underline{¥2,718,000}$$

④期末買掛金

期末貸借対照表の借方合計は $\yen 683,000 + \yen 1,245,000 + \yen 1,888,000 = \yen 3,816,000$

よって

期末買掛金 X は  $\yen 3,816,000 - \yen 2,718,000 = \yen 1,098,000$

第3問

解答用紙と問題文から、**現金収納帳、現金支払帳、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳**を特殊仕訳帳として用いている。勘定科目のうち、**現金、当座預金、売上、仕入**に関しては、月末に合計転記するので、仕訳帳の元丁欄は「✓」を記入する。買掛金は仕入先(買掛金)元帳の丁数を記入する。

				(元丁)					(元丁)
6月18日	(借)	買掛金	220,000	仕1	(貸)	現金	220,000	✓	
20日	(借)	仕入	432,000	✓	(貸)	当座預金	300,000	✓	
						買掛金	100,000	仕2	
						現金	32,000	✓	
21日	(借)	買掛金	180,000	仕2	(貸)	仕入	180,000	✓	
28日	(借)	当座預金	150,000	✓	(貸)	現金	150,000	✓	

第4問

1. 東京商店からの仕入

仕入金額 $\yen 550,000 \Rightarrow$  仕入伝票

(借) 仕入	550,000	(貸) 買掛金	550,000
--------	---------	---------	---------

※5伝票制なので、仕入伝票の金額はすべて買掛金となる。

代金のうち $\yen 150,000$ は現金で支払っている  $\Rightarrow$  出金伝票

(借) 買掛金	150,000	(貸) 現金	150,000
---------	---------	--------	---------

2. 埼玉商店への売上

売上金額 $\yen 576,000 \Rightarrow$  売上传票

(借) 売掛金	576,000	(貸) 売上	576,000
---------	---------	--------	---------

※5伝票制なので、売上传票の金額はすべて売掛金となる。

代金のうち $\yen 176,000$ は小切手で受け取り、ただちに当座預金  $\Rightarrow$  振替伝票

(借) 当座預金	176,000	(貸) 売掛金	176,000
----------	---------	---------	---------

3. 千葉商店への返品

返品処理も仕入伝票を用いる。通常の掛仕入と逆の仕訳になる。

(借) 買掛金	42,000	(貸) 仕入	42,000
---------	--------	--------	--------

7月1日のA商品の商品販売益

売価 $\yen 576,000 -$  原価 $\yen 392,400 =$  商品販売益 $\yen 183,600$

払い出し単価の計算は移動平均法を採用している。したがって

	個数	単価	金額	残合計個数	平均単価	残合計金額
前月繰越高	25個	@ $\yen 1,980$	$\yen 49,500$	25個	@ $\yen 1,980$	$\yen 49,500$
7月1日仕入高	250個	@ $\yen 2,200$	$\yen 550,000$	275個	@ $\yen 2,180$	$\yen 599,500$
7月1日払出高	180個	@ $\yen 2,180$	$\yen 392,400$	95個	@ $\yen 2,180$	$\yen 207,100$

## 第5問

### 未達事項

1.	(借) 本店	40,000	(貸) 売掛金	40,000
2.	(借) 買掛金	70,000	(貸) 支店	70,000
3.	(借) 仕入	80,000	(貸) 本店	80,000
4.	(借) 現金	50,000	(貸) 支店	50,000

支店		本店	
※506,000	70,000	40,000	※346,000
	50,000		80,000
	386,000	386,000	

※残高試算表より

以上より、本店勘定・支店勘定の一致する金額は¥386,000

また本支店合併後の売上総利益は

売上高¥7,853,000 - 売上原価¥3,871,000 = ¥3,982,000

	本店	支店	本支店合併
売上高	4,554,000	3,299,000	7,853,000
期首商品棚卸高	640,000	520,000	1,160,000
当期商品仕入高	2,125,000	1,806,000	3,931,000
計	2,765,000	2,326,000	5,091,000
期末商品棚卸高	670,000	550,000	1,220,000
売上原価	2,095,000	1,776,000	3,871,000
売上総利益			3,982,000

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の算定

支店の期末商品棚卸高は未達分を加えて¥470,000+¥80,000=¥550,000

期首商品棚卸高は残高試算表より

本店分+支店分=¥640,000+¥520,000=¥1,160,000

期末商品棚卸高は

本店分+支店分=¥670,000+¥550,000=¥1,220,000

(借) 仕入	1,160,000	(貸) 繰越商品	1,160,000
繰越商品	1,220,000	仕入	1,220,000

## 2. 貸倒引当金の見積もり

売掛金の残高は (¥625,000 + ¥355,000 - ¥40,000) であるから、

$$¥940,000 \times 5\% = ¥47,000$$

洗い替え法で処理するので、貸倒引当金残高 (本店¥11,000 + 支店¥3,000) ¥14,000 を戻入し、新たに¥47,000 を繰り入れる。

(借) 貸倒引当金	14,000	(貸) 貸倒引当金戻入	14,000
貸倒引当金繰入	47,000	貸倒引当金	47,000

## 3. 減価償却費の計算

(本店備品)

取得価額は¥800,000、耐用年数8年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥800,000 / 8 \text{年} = ¥100,000$$

(借) 減価償却費	100,000	(貸) 備品減価償却累計額	100,000
-----------	---------	---------------	---------

(支店備品)

取得価額は¥400,000、耐用年数8年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥400,000 / 8 \text{年} = ¥50,000$$

(借) 減価償却費	50,000	(貸) 備品減価償却累計額	50,000
-----------	--------	---------------	--------

## 4. 消耗品費の処理 (本店・支店合計)

(借) 消耗品	94,000	(貸) 消耗品費	94,000
---------	--------	----------	--------

$$\text{消耗品費} = ¥230,000 + ¥180,000 - ¥94,000 = ¥316,000$$

## 5. 家賃の繰延べ (本店・支店合計)

(借) 前払家賃	85,000	(貸) 支払家賃	85,000
----------	--------	----------	--------

$$\text{支払家賃} = ¥715,000 + ¥390,000 - ¥85,000 = ¥1,020,000$$

## 6. 支払利息の見越し (本店・支店合計)

(借) 支払利息	20,000	(貸) 未払利息	20,000
----------	--------	----------	--------

$$\text{支払利息} = ¥24,000 + ¥15,000 + ¥20,000 = ¥59,000$$

## 7. 手数料の繰延べ (本店・支店合計)

(借) 受取手数料	14,000	(貸) 前受手数料	14,000
-----------	--------	-----------	--------

$$\text{受取手数料} = ¥76,000 + ¥36,000 - ¥14,000 = ¥98,000$$